

(別紙４)

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターポレボレの木（保育所等訪問支援）			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	6
○従業者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 10月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数)	1名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 11月 15日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	6施設	(回答数)	4施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 24日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職種が訪問に行くことにより、利用児童が園や学校で過ごす中で多角的な視点での評価や支援を提供する事ができる。	専門職種が情報提供する事で、支援内容の見直しを各専門性の意見を踏まえて行う事ができる。	今後もカンファレンス内で、多職種職員と情報共有を行いながらより良い支援に繋がっていきます。
2	多機能型（児童発達支援・放課後等デイサービス）であるため保育所等訪問支援において、通所時の利用児の様子を園や学校等の先生方と情報共有を行う事ができる。 （対象児が児童発達支援事業や放課後等デイサービス事業を利用している場合）	児童発達支援・放課後等デイサービスの状況も合わせた評価や支援プログラムの作成を行っている。 保育所等訪問支援のみ利用する児童の保護者に対しては、電話や事業所への来所等にて支援内容や園や学校の様子や課題を説明し共通理解をしていただいている。	訪問先施設や他施設（利用児童が他事業所も併用して利用している場合）、他施設との連携し保護者と情報共有を行いながら、より良い支援に繋がっていきます。
3	訪問先施設の先生方の当事業所評価や満足度が高い。 訪問先施設の先生方との関係性が良好な園や学校が多く協力的である。	訪問対象児童以外の児童に対しても、アドバイスや相談等必要があれば、積極的に対応している。 訪問先施設の先生方が相談しやすい関係性を築けるように利用児童に対して、当事業所との情報共有を密に行っている。	訪問先施設の先生方との情報共有を密に行い、必要な支援を提案し、より良い療育に繋がっていきます。 訪問先施設の先生方が相談しやすい関係性を築きながらトラブル発生時や緊急な事案の場合は、早急に対処できるようにしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	多機能事業所であり、小規模のため担当職員が児童発達支援事業と放課後等デイサービス事業も兼務しているため訪問支援の日程調整が難しい。 訪問支援時間の確保、調整が難しい。	当事業所は、非常勤職員が大半であり限られた人員の中で訪問支援を行っている。 訪問支援の日程調整など事業所から訪問先施設への連絡の時間確保が難しい。	今後、人員の増員等の検討も考えていきます。 保護者の要望と訪問先の先生方との事前の情報収集を通して必要性を判断し、必要な訪問頻度・回数を決定していきます。必要があれば、担当者会議等開催し、保護者、事業所、園や学校等と連携し利用児童が円滑に生活が送れるよう支援に努めます。
2	訪問先の先生方との訪問時以外の情報の共有やフィードバックの時間の確保が難しい。（特に小学校）	訪問先の先生方と訪問時のフィードバックの時間を確保したいが、先生方も忙しく放課後の限られた時間でしか対応が難しい。	必要に応じて、次回訪問時に課題や配慮が必要と思われる内容について文書で伝え、当事業所から積極的に情報共有を行っていきます。 状況に応じて、フィードバックの方法を検討し、訪問先の先生方が事業所に対して相談しやすい関係性を築けるよう、努めていきます。